平成２５年度第４回「知事と語ろう市町村ミーティングin南陽」

◎　開催日時：平成２５年8月7日（水）１３：３０～１５：３０
◎　開催場所：南陽市役所大会議室
◎　参 加 者：約１５０名

【質疑事項】
＜テーマ「地域資源を活かしたまちづくり」に係る質疑＞
１　若者の地域づくり活動について
２　やまがた緑環境税について
３　県南県立自然公園について
４　６次産業化と朝市について
５　十分一山の耕作放棄地の荒廃を食い止めるには
６　赤湯停車場線の整備について
７　赤湯停車場線を活かした賑わいづくりについて

１　若者の地域づくり活動について

＜意見者＞
　最近、南陽市の青年団が無くなってきており、残っているのは梨郷の青年団だけでになりました。
　いろいろ活発な若者がいなくなってきたということで南陽市の青年教育が始まり、６年目を迎えました。今現在、「ＨＯＰＥ」でご当地ヒーロー「南陽宣隊アルカディオン」による地域おこしを行っています。その他にも大人の部活動として米作りをする「米部」、地元のかぼちゃを利用して街づくりに繋げたいという「かぼちゃプロジェクト」等、南陽市では多数の青年グループが活発な活動をしています。
　自分達のような活動をしているグループは県内全域にありまして、自分も県の交流事業の方に参加させてもらっています。若者が繋がりをもって県全体を盛り上げていくという動きはあるんですけども、まだまだ広がりが足らないと思っています。
　そこで市役所や県の指導によるネットワーク構築だけではなく、我々、若者自らが繋がりを作ろうとしている仕組みが必要だと思います。こういった活動に対して、銀行さんや他の団体からの助成金といった仕組みがあると思うんですけれども、団体への助成に関して、今後とも県のほうから様々なご支援をお願いしたいと思います。

＜知事＞
　ＨＯＰＥでの活動、本当にありがとうございます。南陽市は、若者の活動が活発だとお聞きしており市長さんに敬意を表したいと思っております。
　お話を聞いていて良いなあと思ったのは、行政に先導してもらいたいとか、指導とかというのではなく、自分達が自ら率先して繋がりをもって活動していく仕組みが重要で、そのイニシアティブをとって頑張りたいというのは、凄く大事なことだと思いました。心強く思っています。
　私も、若者の活躍を支援したいと思っておりまして、ずっと若者の施策に取り組んできました。ＨＯＰＥさんといえば、昨年、県内で活躍する若者たちの優れた功績を顕彰する「輝けやまがた若者大賞」を贈らせていただいたところです。
　また、県の事業として「ボランティアキャラバン事業」というのもありまして、被災地支援活動を通して若者が地域活動に参加するきっかけづくりを行うことを支援しております。
　また、今年度から「やまがた若者チャレンジ応援事業」を始めました。若者グループが自ら企画して行う地域の課題解決や地域を元気にするアイディアに対して、計画書を提出してもらいますけれども、最高１００万円まで補助金を交付する事業です。今年度は１０件程度の採択を予定しております。第一期の交付決定先団体として、南陽市の「ふるさと若者ネットワークプロジェクト」さんを決定しているということであります。

今、お話をお聞きしていて、若者がいろんな活動をしたいけれども資金が無いというところがネックだと思います。こういった事業への支援がありますので、是非活用していただきたいと思います。
先般、鶴岡市の山王商店街に「ほのぼの訪問」で行って来ました。その時に「丙申堂」の方達が２０年前からナイトバザーをやっているんですけれども、マンネリ化という言葉が合うかどうかわかりませんが、もう少し目先を変えていかなければいけないのかなというようなお話がありました。その時、まさにアルカディオンさんがナイトバザーに行って、そこで活躍してくれると、雰囲気が変わってくるのかなと、お互い刺激し合うことが大事なのかなと思いました。県内各地に商店街がありますけれど、それぞれでやっておりますので、お互い刺激し合いながら交流したり、また、いろんな提案やアイディアを出し合ったりということで繋がっていくことが、県内全域の地域経済を盛り上げていくことになるんじゃないかと思いました。
県でも、繋ぎ役とかは出来ますので、広域連携をやっていただくのは本当に有効なことだと思います。

2　やまがた緑環境税について

＜意見者＞
私の住む梨郷地区は南陽市の西端に位置し、地区の北側には学校の校歌にも歌われる龍樹山があります。そのことから梨郷地区は「龍樹の里」としていろいろ活動をしています。
梨郷小学校では、以前から全校生徒による龍樹山登山が毎年行われており、登山道の整備には地区の役員や有志の方が協力して参加していました。１３年前からは地区の文化祭の行事の一環として、毎年、大人も交じっての龍樹山登山が行われるようになり、やまがた緑環境税による支援もいただき、そのコースも大幅に延長することができました。
龍樹山の東側には、南陽市総合運動公園とＪＸ日鉱日石株式会社支援を受け「日鉱 里山・龍樹の森」が作られています。こちらの森づくりも５年目を迎え、９月２８日には置賜盆地が一望出来る場所に東屋が完成し、地区の人や小学生全員が参加して桜の木の記念植樹が行われます。
桜の木には個人の名前の入ったプレートが付けられより一層愛着を持って桜の木の成長を見つめてくれることと思います。
この龍樹山一帯が、地域はもとより県内外の人々が世代を超えて集い、楽しみ、また健康づくりの場として活かされ、また、山に登れない人でも将来は国道１１３号や新潟山形南部連絡道路から満開の桜を楽しんでほしいと思いますが、そうなるためには、遊歩道の草刈りや松くい虫による倒木の処理など、毎年の地道な整備を欠かすことはできません。立派な森に成るまでには本当に長い年月が必要だと思います。地区としてこれからもずっと手入れを続けて行きますので、県からも長いご支援と応援を是非お願いしたいと思います。

＜知事＞
やまがた緑環境税でございますけれども、それを財源として、ナラ枯れなど病害虫によって被害を受けた里山など、県民生活に大きな影響を及ぼす森林の整備を進めたりしております。森林が持つ環境保全機能が発揮されることが大事だと思います。
また、県民の皆さんが森づくりに参加していただくことが大変大事でありまして、その事業にも力を入れております。自治会など地域の方々やボランティア団体、また企業の皆さんが主体的に取り組む森づくりを支援しております。これは「県民みんなで支える森・みどり環境公募事業」といっております。
これまで多くの県民の皆様から、この事業を活用していただいております。平成１９年度は実施団体が４８団体だったのですが、その５年後の平成２４年度には１１７団体に増えました。活動参加者数は、最初６，５００名だったのですが、昨年は１９，１５０名に増加しておりまして、県民皆で支える森づくり活動が着実にその輪を広げていると実感しております。
梨郷地域でありますけれども、「龍樹の里づくり推進委員会」さん、そして「梨郷さくらの里山をつくる会」さんがこの事業にご応募をいただいておりまして、桜の植栽や下刈り、遊歩道の整備などを行っていると伺っております。これからも地域が一体となった取組みを期待しております。
時間はかかると思いますが、桜でいっぱいになるという、非常に楽しみな計画になるのかなと感じており、それが出来た時は沢山の人が訪れるようになると思います。頭の中に浮かぶのは福島市の花見山公園ですね。個人でありますけれども、一生懸命何十年も取り組んでこられて、一つの山を季節を通していろんな花が咲く山にし

て、本当に沢山の方々が訪れており観光地になっております。花が沢山咲いて毎年行きたいと思われる地域になったら良いと思ったところでございます。時間はかかると思いますけれども、着実に地道に続けてください。継続こそ力なりということでありますので、これからも積極的にそして継続的に、森づくり活動にしっかり取り組んでいただければ大変ありがたいと思います。今後もそういった自主的な取組みを応援していきたいと思っております。

3　県南県立自然公園について

＜意見者＞
南陽市の北の方に白鷹山があります。白鷹山は３市２町にまたがっている山です。県南県立自然公園が南陽市にありますけれども、その中に入っているかなと思って調べたんですが外れておりました。
県内には６つの県立自然公園があります。白鷹山をぜひ県立公園にしていただきまして、地域振興に少しでも役に立てば、身近な観光資源を活用するということで、県の方針とも合うと思います。
いろいろ問題があると思います。場所が村山総合支庁と置賜総合支庁の行政のエリアの狭間になっているため今まで実現できなかったのではないかと思っています。公聴会などを開いていただき、納得のいく県立自然公園の実現をお待ちします。

＜知事＞
県立自然公園が６つと今ご紹介いただきました。まず県南県立自然公園が１つですね。それから庄内海浜県立自然公園があります。それから御所山県立自然公園がありまして、加無山県立自然公園もあります。天童高原県立自然公園があって、最上川県立自然公園の６ヶ所でございます。
「県南県立自然公園」はその内の１つですけれども、南陽市と高畠町の里山地域を中心として昭和３６年の９月に指定をいたしました。他の県立自然公園に先駆けて、昭和５８年４月に岩部山を拡大するなど、公園区域の拡大、削除等の見直し作業、いわゆる再検討を実施しているところであります。県立自然公園は、将来的に社会情勢や自然環境の状況を踏まえて、地域に相応しい公園に再編することも必要だと考えております。
白鷹山は、山形市、上山市、南陽市、山辺町、白鷹町の５市町にまたがっている山です。ですから沢山の人が登っているということでもありますし、おっしゃるようにエリアとしては村山総合支庁と置賜総合支庁にかかっております。白鷹山を公園区域へ編入することにつきましては、白鷹山と周辺の自然環境の現況が自然公園として適した資質となっているかを見ていく必要があります。また、地権者もおり、地権者と５つの市町、関係支庁との調整を行っていくことが必要でございますので、持ち帰らせていただきたいと思います。

＜市長＞
今知事さんからあったように、白鷹町や南陽市の財産区であったり、頂上周辺は私有地だったりと様々あります。自然公園にすれば様々な規制がかかるわけなので、その辺の調整が必要ということを知事さんは話されているんだなと思っています。
伐採が出来ないとか、様々な問題を聞きますので、メリットもあると思いますけれども、地権者にとってみればデメリットもあるということになると思います。何もしないのが自由に使えるし、いろいろと整備も出来るので、市としては今の方が規制をかけられるよりは良いのかなと思っております。

4　６次産業化と朝市について

＜意見者＞
６次産業化を目指すとともに、地域ににぎわいを創出し、活性化を図ろうと取り組んでいます。
南陽市では４つの朝市を開催しております。６次産業推進課より助成と支援をいただきました。それ以来、南陽市の朝市は４つとも右肩上がりでございます。ありがとうございます。
朝市では、女性の方々が、郷土の財宝ラ・フランスやリンゴなどで焼き肉のたれを作りました。これがほぼ完売でありがたいものです。
是非、梨郷朝市と４つの朝市いらしていただき、梨郷会場から５００メートルくらいの「龍樹の里」にも登っ

ていただければと思います。

＜知事＞
美味しい物は売れます。右肩上がりということでありますので、ずっと右肩上がりになることを心から祈念いたします。
６次産業を進めることで、生産者の皆さんも収入が増え、加工することでお手伝いする方が増え、働く場所が出来ることに繋がっていきますので、どんどんやって欲しいと思っています。
先程も申し上げましたけれども、「食産業王国やまがた」を実現していきたいと思っております。中身は６次産業化なんです。農業と食品製造業を中心とする産業横断的な施策でありますので、しっかりと取り組んでまいります。

＜意見者＞
４つの朝市は、赤湯の「観光朝市」が月２回、宮内の「げんき熊野市」は各地域から代表して熊野様のところでやる市、夕鶴の里のところ「おりはたの朝市」、そして「梨郷の朝市」は農家が主体の朝市です。必ず２つはやっていますので是非お出でいただきたいと思います。

＜知事＞
生産者の皆さんには、観光、直売ということでやってくださっていることは、地域を元気にすることでありますので、地域が元気になると、南陽市が元気になり、山形県も元気になるということになりますので、私どもも出来る限りの応援をしていきますし、ますます頑張ってほしいと思っております。
山形６次産業化戦略推進ビジョンを年内に策定する予定でございます。そして、しっかりと６次産業化を進めていきたいと思っているところです。南陽市さんでも、６次産業化を推進するために協議会を立ち上げる予定というふうに聞いております。

＜市長＞
お話にあったように、おりはた市場、梨郷市場、げんき熊野市、赤湯温泉観光朝市と４つあるんですが、いずれも特色があります。良いことであります。
南陽市も、県の６次産業化に並んで見習いたいという思いで取り組もうとしております。大きなことよりも、自分達でできることから進めていけばいいんじゃないかと思っておりまして、そうした中で「ゆかい倶楽部」の皆さん方が漬物関係をやりたいということで、県からの補助をいただいたりと、非常に頑張っておりまして、これからの先導役になっていただけるんじゃないかと思っております。
市としても、６次産業化を推進できればと思っておりますので、よろしくご協力、ご理解いただきたいと思います。とにかくどうしたらいいか、まず行動する。そういう情熱が何より大事なんじゃないかと思っております。

＜知事＞
農林水産省の方から言われたんですが、山形県が６次産業化推進本部を立ち上げてしっかり取り組むのは先進的だと言われました。方向性は何となくわかっていても、なかなか取り組むのが難しいのが６次産業化なんですね。だけどやる気だと思います。今、皆さんがやる気になって行政がそれを後押しする。ということがとても大事だと思っています。
南陽市さんが積極的にやってくださるということで、私も旗振り役をやっていきますし、出来る限りのサポートをしていきたいと思っておりますので、今後とも、よろしくお願いしたいと思います。

5　十分一山の耕作放棄地の荒廃を食い止めるには

＜意見者＞
社会貢献基金をいただいて「体験工房はまぁーれ」を立ち上げて間もなく２年なります。雇用もはじめたら赤字を出してきつつあるもので、ここで何とか巻き返して、体験工房を無くさないで頑張って行きたいと思っています。

お料理とかいろんな物を作っている間に美味しい物ができるので、これを６次産業化に結び付けて漬物と惣菜工房を作りたいということで、企業創業の３分の２の補助を受けました。今回、企業組合の設置を県の方に申請しまして、昨日、認可が下りました。どうもありがとうございます。これから一生懸命頑張って行きます。

十分一山のブドウ畑の荒廃のことですが、目に余るほどひどい状況になって来ています。やまがた緑環境税で棚の撤去や雑木の伐採など綺麗にしていただいた部分は良いのですが、緑環境税で対応できない部分の荒廃が目立ちます。

ブドウ畑の後継者がいないんです。平均年齢が７５歳ぐらい。担い手育成制度により、今、南陽市内にある４社のワイナリーに３名、３件のワイナリーで担い手さんを受けさせていただき、担い手を育てようとしています。その子どもたちはこの暑さの中、文句も言わずに一生懸命がんばってブドウ畑で精を出してもらっています。今のブドウ農家さんに叱咤激励して共に頑張りましょうよというよりは、若い人を雇用して受け入れて、ブドウ園を例えば市民農園とかにして、風穴を開けていただきたいと思っています。

息子が頑張って耕作地を増やしています。２年目、３年目になってようやく上に伸びてきたかなと思います。１つのワイナリーにできることは限られていますので、景観保全というか、白竜湖と里山を考えれば、この原風景は無くさないでほしい。これから先１００年続けられるようなブドウ畑を再生したいと考えております。

今、国産ワインブームです。非常にワインが売れています。でも足りないのがブドウです。需要と供給のバランスが取れなくなってきていますので、いろいろ調べていただいて、どういう方法が良いのか、もう一押しお力添えいただきたいと思います。

市からも補助事業とかいろいろ援助はいただいていますけれど、そこから先になかなか進めない状況です。

<知事>

十分一山の周辺の耕作放棄地でありますけれども、酒井ワイナリーさんが主体となって、県の農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業、いわゆるオーダーメイド事業をご活用していただきました。ブドウ栽培地に羊を放牧して循環型農業を展開され、荒廃ブドウ園を醸造用ブドウ畑に再生していただいたと聞いております。本当に大きな成果だと思います。

お話をいただきましたが、それがまだまだ足りないということだと思います。南陽市さんといえば、あの白竜湖、そしてブドウ棚、そしてハングライダーというふうに、素晴らしい景観がまず頭に浮かびます。そこを１００年続くようにしていきたいというお考えがあるのだと思います。私どもも、訪れて本当に素晴らしいところだと覚えていただくのが大事なことですので、耕作放棄地をどうしたら良いかについて、大きな問題・課題として考えています。総合支庁がプロジェクト窓口となっておりまして、いろいろとご相談させていただきながら、やっていくんだろうと思っております。

また、高齢化してなかなか坂道で働くのが大変でありまして、若い力を活用するのは大事だなと思います。新規就労者、集落営農、そういった多様な担い手によるブドウ畑の再生に向けて地域住民の皆様と南陽市の意向とアイディアを踏まえ、農地の利活用に対する支援を検討していきたいと考えております。総合支庁で何かありましたらお願いします。

<支庁産業経済部長>

南陽市さんで、近々検討会を立ち上げていくと伺ってございます。私どもも参画させていただきながら、先程から出ております創意工夫のプロジェクトとか、活用出来るものは、しっかり活用しながら、取組みを進めてまいりたいと思います。

周辺の集落のスタッフが、今後５年１０年の地域づくりの観点も取り入れながらやっていく必要があると思ってございますので、南陽市さんと共にしっかり連携しながら取組みを進めて行きたいと思っております。

<知事>

ワインブームが全国の流れで、今が良いタイミングです、全国の流れだということでありますので、その流れを捉えながら何か手立ては無いものかと、ボランティアというわけにもいかないでしょうけれども、何かアイディアが出てくるんじゃないかと考えています。ワインブームというのが一つの核になりそうな気がします。

<市長>

県南県立自然公園の一部になっており、景観については前々から何とかしたいということで、農林課のほうにも指示をしながら、これまでも様々な方面で取り組んでおります。平成２２年から今年も５００万円くらいの予算で取り組み整備をしてきました。せっかくの南陽市の景観地として最大の原風景の場所ですから守りたいと思っています。

今月の大雨被害でボランティアセンターを設置しましたが、マンパワー、ボランティアの人海戦術というか頭数があるのはたいしたもの。ブドウ園としてやりたいという人がいれば、ああいうところは機械を入れるよりは、若い、馬力のあるボランティアのマンパワーでやれば、一気にやれるかもしれない。とにかく現実的な選択をして皆さん方の期待に応えていきたい。

ただ、土地は個人の物なのでそこがネックになっています。市のほうできれいにしますよと言っても、「いや触らないでもらいたい。」と言われるのが、農林課では困っていることでございます。そこさえうまくいけばなんとかなるし、ぜひうちの農地を使ってくださいというところから積極的に整備を進めたいと思っています。研究して昔のようなブドウ畑を再現できればと思っています。

＜知事＞

今のお話でなんとなく見えてきたような感じがしますね。県内で棚田が結構あるんですけど、いろんなボランティアの方々に手伝っていただいて、棚田を守って、その季節の田植えとか稲刈りのときに来てもらって、出来上がったお米を少しずつでも送るといった取組みをやっているところがありますので、今、市長さんが言ったことは、案外現実的なことではないかと思いますね。

うまく進むように、県も一緒になって取り組ませていただきたいと思います。検討会議に参画するということでありますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

6　赤湯停車場線の整備について

＜意見者＞

南陽市にはたくさん観光地がありますけれども、逆に一番弱点なのは何かと思いますと、駅前が寂しいんではないかということです。山形新幹線の駅の中で一番寂しいのではないか。駅を降りて何にもないと。観光客の皆様にとりましても、またビジネスのお客様にとりましても印象が悪いのではないかと思います。

赤湯駅前商店街でもいろいろやっているんですけれども限界がございまして、なかなか大変です。

今、赤湯停車場線の整備が進んでおります。駅前まで延伸していただけるということは伺っておりますが、まだいつになるかわからないと。そこで、なるべく早く駅前までの延伸をお願いしたいと思います。

今まで私が一番印象に残っているのは、今から３０年前の話ですけれども、秋田県の湯沢に視察に行ったんです。そのとき真冬でした。車道には雪が積もっていたんですよね、でも歩道には消雪管を引いておりまして、全然雪がなかったんです。それを見ますと、湯沢は車で来る人よりも歩いている人を大切にしているんだなと思い非常に感心しました。

また、３日前の話ですけれども、天童市に用事があって行ってきました。天童市のメインストリートの街路樹が松の木だったんです。非常にめずらしいなと思いました。

ただ国からの指定された道路を作るんではなくて、住んでいる人に優しい、南陽市らしい、これぞ山形県の県道だという道路をなるべく早くの時期に、駅まで延伸をしていただきたいと思います。

＜意見者＞

南陽市にはご存じのように今日見ていただいた赤湯駅がありまして、もう１つ、１級国道１３号があります。それを結ぶ路線が、赤湯停車場線という南陽市の顔といわれる道路でありますが、平成２５年までに完成予定の赤湯工区が整備されております。

最近の観光客は、特に南陽市の果物や温泉に来るのに、県外から来られる方は、車で直接温泉街に入るということではなく、歩道を歩いてウォーキングをしながら、町を散策しながら見てこられます。何としても赤湯駅まで延伸してほしいことを４年前にもお願いしたところです。

今回、赤湯工区が終了するのを機に、平成２５年度から、二色根工区ということで４５０ｍが新しく格上げなったということでございます。大変それはありがたいことでございますが、今回の赤湯工区にしても、本来なら

ばもっと早く実現、完成予定だったものが、遅れ遅れになっているわけであります。
今回は、町づくりの観点から、赤湯停車場線の街路整備事業を早期に実現いただけるようお願いしたいなと思ってきたところです。
平成２４年度で終了する予定であった赤湯工区がいまだにできていない。平成２５年度まで延伸して、二色根工区がさらに輪をかけて遅れてくるようなことのないよう、地域も一生懸命頑張りますので、なにとぞご尽力をいただきたいなと思っております。

＜知事＞
赤湯停車場線の整備であります。南陽市さんには大変大事な道路だと思います。赤湯駅まで延伸するという方針は変わっていないと思っております。町づくりと一緒になって進めるというのは、とても大事なことです。
赤湯工区は今年中にがんばりたいと聞いているところでありますが、今回、県内全域で、南陽市さんでも災害、水害がありました。護岸が欠壊したところや道路が欠壊したところがたくさんありました。これから災害査定を行って工事することになります。復旧工事が本格化します。災害は何よりも優先だと思っております。工事関係者の方も限られた数でありますので、こちらに影響がなければいいかなと、大震災、太平洋側にマンパワーや機械が行っておりまして、山形県内の工事の進捗状況に遅れをきたすことがあるんではないかとか、いろいろ心配事があるのですけども。資材が高騰していたり他にもいろいろあるんですが、全力で頑張りたいと担当も申しております。なんとか平成２５年度中に頑張りたいと言っておりますけれども、やはり復旧工事のほうと、これからいろいろな兼ね合いが出てこなければいいなということであります。ご理解をいただければと思っております。
二色根工区は今年度から新規事業としてスタートしております。地域の皆さんからご協力いただかなければならないことがたくさんありますので、町づくりを一緒に進めながら、ぜひご協力をお願いしたいと思っております。
赤湯駅までの整備ということになりますと、二色根工区の進捗状況を見ながらになりますので、今後、整備時期について検討していくことになろうかと思います。

＜支庁建設部長＞
二色根工区の具体的な進み方を若干補足させていただきたいと思います。
二色根工区は今年度から事業着手したということで、先ほどご指摘ありました延長４５０ｍでございますが、今年度は現地での測量に入らせていただきますので、関係者の方々のご了解をいただきたいと思います。
来年度につきましては、土地の測量と建物の調査を行いたいと思っております。引き続き、用地の取得であるとか建物の移転を行いたいのですが、全体の予算の関係がございます。なるべく早期に用地取得に入らせていただきまして、事業完成するように頑張ってまいりたいと思いますので、引き続き皆様方の町づくりを含めたご協力をよろしくお願いいたします。

７　赤湯停車場線を活かした賑わいづくりについて

＜意見者＞
赤湯工区が完成間近になり、完成した歩道などを利用しながらのイベント等を今考えております。その中で、これまでいろいろ規制とかがあってできなかったこともあるんですが、県の道路の使用規制でできなかったイベントがあり、せっかく広くなったのに何にもやらないんだというお話もあったりしました。イベントの方法とか持ち方等といった、補助事業等がありましたらご紹介いただきたい、というのが１点でございます。
また、８月１２日「赤湯温泉市神社」がありまして、３時から１０時まで通行止めの歩行者天国をやります。お祭りを毎年行っておるわけですが、その道路の幅を有効利用しながら、真ん中にベンチを置いたり、氷の彫刻で涼みのキャンドルを作ったりしながらイベントを行おうとしておりますので、ご指導等ありましたら、よろしくお願いしたいと思います。

＜知事＞
第１工区の完成が近いということで、非常に良かったと思います。商店街の活性化、にぎわいづくりと大事なことでありますので、ぜひこれからもご活動、ご活躍をお願いいたします。

具体的な支援ということであります。商店街のにぎわいづくりのために、地域の皆さんがその地域の魅力を知って、にぎわいづくりに取り組もうとする意欲が大切でありますので、そのための勉強会、ワークショップを県が事務局となって開催しております。平成２３、２４年度は、宮内地区の町づくり協議会でご活用いただきました。地元の観光地などの地域資源をＰＲするガイドブックを作成すると聞いております。

次に、市町村や商店街など、地域がまとまって商店街の活性化に取り組む場合には、イベントなどの事業へ支援を行っております。それから、県内にある大学の協力のもと、大学の教員や学生に町づくり活動に参加していただいて、企画提案や指導、助言を通して街のにぎわい事業に取り組む活動を支援しております。

具体的には、平成２４年度は県内２つの地区で実施しております。１つは高畠町でありまして、芸工大に協力してもらいまして、旧高畠駅舎を活用したイベント「たかはた秋まつり」などをやっております。もう１つは、酒田市と東北公益文科大学とが組みまして、町中の観光資源の発掘調査、ワークショップをやっております。その活動を支援しております。

今年度は、酒田市と東北公益文科大学の事業を引き続き実施中ということであります。もう１地区は未定ということであります。

国の支援制度もあります。「地域商店街活性化事業（にぎわい補助金）」というのがあるんですけど、第１次募集が今年の２月から４月まででした。第２次募集は６月から７月まででありました。また、「中小商業活力向上事業」というのがありまして、法認定の必要性はないんですけれども、商店街活性化事業計画が認定されていれば、補助率が３分の２に上がる事業となっております。いろんな事業がありますので、県の「商業・まちづくり振興課」、総合支庁、地元南陽市にも相談していただければと思います。総合支庁から補足をしてもらいます。

<支庁産業経済部長>

具体的には、地元の市役所さんとの調整、あるいは商工会さん等との連携をしながら取り組みを進めていくことになろうかと思います。知事のほうからお話しありました事業を活用しながら、計画段階から打合わせをさせていただきながら進めていけると思っているところでございます。

<市長>

せっかく皆さん方のアイディアを出して作った道路ですから、「どうしたいのか」が大事だと思います。積極的に発信してそれをやらせてほしいと、県の規制を取り払うくらいの意見がないとだめなんじゃないかと思います。

市としては、なんでも受け入れしますと、毎日でも歩行者天国、通行止めやれ、と言っているわけです。毎日あそこでね、店を出すとかとにかく徹底してやれば、あそこ行けば毎日何かやっているぞとなる。１週間に１回とか１ヶ月に１回とかだとだれも気がつかないけれど、毎日やっていれば、いやでも赤湯だけでなく、南陽市、あるいは山形県が認知してくれるんじゃないかと思います。徹底して皆さんやれることをやって持続できるようにするのが大切。ビジネスとして成り立つようにしないと、持続するにはビジネスとしてやれる、経済活動の一環としていくのが大事だと思います。

市でも皆さん方がこうやりたいということには、だめだとは、ほとんど言わないはずですから。私は何でもやれと言っているわけですから。とにかく頑張って、気持ちをひとつに、元気を出していただければと。

あんなにすごい道路作ってもらって、何したらいいかわからないなんて言われたのでは困ります。

<知事>

全国の商店街で、いろんな取組みをやっている例があるんじゃないかと思うんですね。アイディアと熱意なのかなというふうに思います。

以降、時間の関係上、意見のみをいただくこととした。

<意見者>

知事さんに除幕式のご案内を申し上げたく機会をいただきましたのでお話をさせていただきます。

私たちの会は「白鷹山に『伝国の辞』碑をつくる会」と申します。白鷹山は昔から五郡の境として親しまれ、また、山頂には福満大虚空蔵尊が祭られており、霊験あらたかな山でございます。祭礼日が毎年５月１３日で、

この日は３市２町をはじめ、国、県、関係団体による山頂サミットが盛大に開かれ、開発面などについて協議がなされております。同時にふもとの小学生たちによる子どもサミットも開かれ、大変な賑わいを見せております。

この山頂広場に米沢藩主上杉鷹山公の教えである「伝国の辞」という遺訓を碑に刻み、建立しようと立ち上げた会であります。

「伝国の辞」の碑は、現在上杉神社入り口に松岬神社があり、その境内に建立されています。内容は鷹山公が息子治広に家督を譲る際に与えた藩主の心得であり、「国家は先祖伝来のものであり、人民は国家に属するものであり私物化してはならない、また君主は国家人民のために存在するものである」として、専制君主とならぬように戒めているもので、これを３ヶ条にまとめたものであります。これと同じ内容のものを白鷹山頂に建立し、鷹山公の理念を世界に発信しようとするものであります。総事業費は２５０万円。碑の完成は今年度の１０月末を目途として現在募金活動を行っております。

その除幕式でございますが、来年の白鷹山祭礼の５月１３日を予定しております。ぜひ、ご出席を賜りご祝辞をいただき花を添えていただければ、なによりのご厚意と存ずるところでございます。

＜意見者＞

１つは、地域産物で南陽市の活性化というテーマでございますが、これ今、南陽市に限らず山形県全体、大きく言えば日本全体に影響する中山間地域の耕作放棄地が膨大な面積を占めてきています。

山形県でも研究開発を進めておられますが、太陽光発電を提言したいと思います。その中山間地域は前からも今も、これからもそうですが、少しでもその地域を荒廃させないで太陽光発電のような施設を作って活用できないかと思っております。

もう１つ、７月に行っております河川の愛護デーを４月にできないものでしょうか。７月は草が生い茂ってごみ袋に入り切れないんです。できれば検討していただきたいということでございます。